

学校評価報告書

学校名 深谷市立花園小学校

校長名 持田 倫武 印

1 学校評価のねらい (学校・園としての受け止め)

本校の教育活動その他の学校運営について、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される学校づくりを進める。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- (1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。
  - ①教育課程の編成・実施に関する評価。
  - ②教育課程の編成と実施を支える条件。
- (2) 学校関係者(学校運営協議会委員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。
  - ①教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価。
  - ②教育環境の状況に関する評価。
- (3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。
  - ①教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価。
  - ②教育環境の状況に関する評価。
- (4) 全児童から学校生活・家庭生活について年2回、自己評価する。
  - ①学校での規律ある態度に関する評価。
  - ②家庭での規律ある態度に関する評価。

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

「学校での生活が楽しい」と評価している児童が、前期・後期とも約95%を示している。また、「授業がわかる」と評価している児童が、前期・後期とも約96%、係活動や清掃活動などしっかり取り組むことができているも約97%の児童が評価している。さらに運動に一生懸命取り組んでいる児童が約96%である。

保護者への調査では、全21項目中17項目で80%以上の評価を得ている。「目標をもち、頑張る児童を育てている」では、約95%で、前期より、2%向上している。一方、80%に達していない1項目は、「子供は、靴を揃える習慣が身に付いている。」で、約42.5%の大変厳しい評価であった。学校では、下駄箱があり、その中で靴を揃えることはできるが、下駄箱でないところでは不十分のようである。家庭と連携し、どんな場所でも靴を揃えられる児童を育てていきたい。

(2) 学校教育目標の具現化に向けた指標

学校教育目標の具現化に向け、本校で取り組んでいる教育活動や学校運営は概ね高い評価を得られており、学習にも前向きに取り組み、児童も楽しい学校生活を送

っている。学校教育目標「のぞみにむかってがんばる子」には、児童の約95%以上ががんばっていると応え、保護者でも約94%の評価である。また、宿題等の家庭学習でも約95%を超す児童が毎日よく学習し、保護者でも約81%の評価である。

体力では、項目数で県の平均値を約44%上回っている。20mシャトルランでは全学年で、立ち幅跳びでは多くの学年で県の平均値を上回った。しかし、上体起こし、握力、長座体前屈、50m走の種目では、昨年度からもあまり向上していないこともわかった。体育指導や業前運動の指導を通して、運動量を増やして体力の向上を図ることが課題である。

規律では、大きな声であいさつは約89%以上、「ありがとう」「ごめんなさい」がはっきり言えるは約96%の達成率である。また、「安全に気を付けている」のは、約89%である。

### (3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

「授業がわかる」と評価している児童が約96%、「わかりやすい授業」と評価している保護者も約92%である。「授業中よく話を聞き、発表している」と評価している児童は約83%、宿題を中心にした家庭学習の取組では、約97%の児童がよく取り組んでいる。「学校は、基礎学力の向上に努力している」と評価している保護者は約91%である。「目標にむかってがんばる」には、児童の約95%以上ががんばっていると答え、保護者でも約91%の評価である。今後は、さらに思考力、判断力、表現力の育成に向け、授業を工夫改善していくことが課題である。

## 4 次年度に向けての展望

宿題を忘れずにしている児童が約95%、学校が楽しいとする児童が約96%、授業がわかりやすいと評価したが約96%である。宿題を忘れずに行い、学習内容がわかりやすい、学校が楽しいとしている児童が多いが、授業中、話をよく聞き発表している児童が約84%であった。

全国学力調査の結果や保護者のアンケートによれば、基礎的な知識・技能を活用する場を授業に意図的に用意して、思考力、判断力、表現力を育てることや、自分の考えを根拠を持って説明できる力を育成するために、授業における発問の工夫や切り返しの発問、学習活動や発表形態の工夫など指導方法の工夫改善を図っていく必要がある。

チャイム席、学習の準備、安全に対する実践力等では、今後も更なる向上を目指して家庭やPTAと連携した継続指導を要する。また、「いじめや問題行動等の防止に向け、適切に対応していると思う」は、約85%である。昨年度よりも5ポイント向上したが、約15%の保護者は、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」「どちらとも言えない」と回答している。今後さらに、いじめ防止に向けた取組を積極的に家庭や地域に発信していくことで理解していただく。また、家庭へのこまめな連絡相談にもさらに取り組み、いじめアンケートの実施や学級活動の充実により一層努め、いじめや問題行動防止に対する児童への働きかけを強化する。そして、「花園小学校いじめ防止基本方針」をもとに、保護者と共に実践する取組をさらに検討していき、学校運営並びに教育活動の推進を図っていきたい。